

西予市立病院等へ指定管理者制度導入 一方的な職員の分限免職(解雇)は認められない



第576号

発行所
自治労連愛媛県本部
松山市三番町8丁目10-2
電話(089)931-7312
FAX(089)933-1699
jehime@sage.ocn.ne.jp
発行人 森賀 俊二
編集人 和氣 伸二
(組合員の連絡先は組合員
のなかには含まれていません)

日程

- 【2月】
 - 1 自治労連非正規全国交流集会(東京、web併用~2)
 - 2 地域医療学習・意思統一集会(本部、web併用)
 - 3 医療関係府省要請・団体懇談(東京)
 - 5 保育・学童保育政府・国会要請行動(東京)
 - 8 県本部中央委員会 県本部労安学習会 本部女性部全国代表者会議・春闘集会(静岡~9)
 - 14 自治労連共済学校(滋賀~15)
 - 15 自治体保育労働者の全国集会in広島(~16) 本部現業評価大京都府県代表者会議(web)
 - 17 県本部統一要求提出(~21) 本部青年・女性ステップセミナー2025(東京~23)
 - 28 内子町職学習会・懇親会
- 【3月】
 - 1 本部都市職・町村職部会 合同全国交流集会(~2)

■西予市は、市立「西予市民病院」「野村病院」「つくし苑(介護施設)」の指定管理者制度導入について、2024年6月市議会に「指定管理者を『(公益社団法人)地域医療振興協会』とする」議案を上げましたが1票差で否決されました。ところが市長は翌月の7月22日に臨時議会を招集し、全く同じ議案を上げ、強引な手法で可決させました。



12/5愛媛労連の西予市への要請

12月には、愛媛労連が5日西予市へ、24日愛媛県へ要請(囲み内参照)を行いました。西予市への要請では、市長が誠意ある説明を早急に行うこと。◎協移行職員の処遇確保のため市が最大限努力すること。◎正規・会計年度・委託部門職員で協会不採用者については、市の部署を含め再就職の斡旋・雇用確保に最後まで最大限努力すること。など要請。西予市から「最大限努力する」などの発言もありました。

西予市が地域医療と職員雇用を守るよう 愛媛県に進言・指導を要請

12月24日、愛媛労連は「西予市の地域医療と職員の雇用を守る要請書」(10月提出)にもつき2回目の県要請を実施。組合側6人が参加し、県側は市町振興課・労政雇用課・医療対策室の6人が対応しました。(以下)



概要抜粋・文責(県本部)「市町振興課」職員の身分や任用条件は西予市に権限がある。市が責任持ち判断する内容で市に伝えている。《自治労連》西予市は「公立病院医療提供体制確保支援事業」として県の認可を受けて国に申請している。県がチェックする必要があるのではないか。制度趣旨を踏まえた指導をすべきだ。医療スタッフが一方的に何の理解も納得もなく解雇される制度ではない。市民と職員に十分理解を得ながら進めるべきと県が進言する必要がある。《西予市職労》正

職員を希望して不採用になった職員が2人いる。市から協会に働きかけて欲しいが、市は「協会が決めたこと」と言う。協会移行が難しいなら市が責任持つて職員として雇用確保するよう市に要請してほしい。(他、人員確保、現給保障、市のやり方への不信など訴え)

《愛媛労連》医療介護労働者が不安を持って働き続けられない状況が、県を通じて申請した支援事業で進行している。県内の公立病院の職員の雇用や医療が蔑ろにされている。きちんと指導してほしい。《医療対策室》市

この問題の根底には、「地方自治体の財政難」と「医師の不足と偏在」があります。特に合併自治体では、合併での財政優遇期間が過ぎた現在、国・県のいねいな措置が求められています。さらに医師が都市部に集中し、地方では深刻な不足が続いています。このままでは、地域医療が崩壊してしまいます。医師不足を解消し、診療科ごとの必要な人数を算出し、確保するしくみが求められています。

もう一つは、国(総務省)が、公立病院の経営改革に向けた施策の中で2021年度創設した「公立病院医療提供体制確保支援事業」です。「あくまで経営改善に向けたアドバイス事業」とされていますが、そのアドバイスが地域医療振興協会の指定管理者受託と結びついているのは、この間の事例から見ても明らかです。

この二つの地域医療に関する問題を解決することなく、疲労困憊する地方を追い込むような制度は、一刻も早く廃止するかアドバイスと指定管理者の受託を完全に切り離すなどの大幅な改正が必要です。

ポイントは、軽く集まる、気軽に対話する、 組合の成果と役割を胸を張って伝える

■県本部は1月18日「25採・未加入対策」西予市組織集会を開催し12人参加。力石県本部副委員長が司会進行し、森賀県本部委員長が「要求実現と組織強化拡大の『両輪』の運動」を軸とした「基本方針」を提起。前半は、12月本部組織集会の参加者から次の報告を受け意見交換。「新員長：自身の経験から『青年部活性化から世代継承につながる』『青年が主体的に参加できる活動を』『組合は人と人。仕事の話からコミュニケーションのキックオフ』『青年を」



《組織集会》

後半「組織強化拡大と一体の自営労連非営活動」をテーマに「特別重点支援措置」高知自治労連・岡上委員長(web)、「防災共済・風水害特約」国廣県本部書記の報告を受けて意見交換。組織強化拡大へのポイントを共有しました。

5年ぶりにバレーボール県大会開催 スポーツを通して親睦交流深める

12月22日、県本部女子バレーボール大会をコロナ禍以降、5年ぶりに西条市・ひうち体育館で開催にこぎつけた。また今回2



《女子バレーボール大会》



チームの参加ということもあり、親睦試合として、新居浜市職労男子チームにも審判で協力いただきました。各チーム5年ぶりで徐々に顔を合わせ試合ができること、好評。惜しいプレーを励ましあう姿、応援の声援など、バレーボールを通しての親睦交流を深めることができました。「県内3チーム以上の開催」や「高知県四万十市公労チームなども一緒に四国ブロック大会開催」の要望も出されました。

【南予総支部】南予ブロック春闘決起集会、春闘課題・学習会など協議



南予総支部は1月20日「第2回単組代表委員会」を西予市で開催。3月9日に内子町で実施する「南予ブロック春闘決起集会」の内容を協議。主な内容では、各団体からの決意表明、集会宣言などのブロック集会を開催し、親睦を図るために

【山】ノーベル平和賞と組合の関わり学習 再任用給与改善を人事課申入れ



松山市職労は1月15日「執行委員会」を開催し9人が参加。情勢学習では、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協代表理事の松浦秀人さん（松山市在住）の報告会の新聞記事を紹介。組書記だった久保伸子さん（1992年逝去）が組合の支援で県原爆被害者の会と日

【新居浜】婦人部「愛彩会」ワークショップ「フォトスポットなど楽しもう」

新居浜市職労婦人部は12月14日、恒例の『愛彩会』を開催。市内公民館を会場に、大人59人と子ども25人が参加。ワークショップでは市内のサロンや教室から講師を招き、食品サンプル作りやバスボム&ハンドクリーム作り、癒しのカイロプラクティック・マッサージなど、さまざまな企画で大



【津島吉田】公立病院・施設の拡充を要求し交渉し職場改善を



津島吉田病院局労組は12月19日「定期大会」を開催。病院・施設では感染症対応で大変な状況でしたが、人数を制限し実働しました。森賀県本部委員長が、西予市の病院・施設の指定管理者制度導入に触れ「引き続き愛媛の医療・介護の仲間

被爆80年、日本被団協・松浦代表委員が受賞報告



1月13日、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の代表委員の1人、松浦秀人さんがノルウェーでの授賞式に参加した報告会を松山市内で開催し250人超が参加。松浦さんは「胎内被爆者である私に、県原爆被害者の会と日本被団協結成にも

春闘で要求実現へ決意 今年の活動旺盛に進めよう



1月10日「新春合同旗びらき集会」を松山市内で開催し約70人が参加。オープニングは「世の中おかしなことだらけ」のコントで批評。今井実行委員長は「今こそ労働組合の出番、役割を發揮し物価高騰を上回る賃金引き上げの実現を。日本被

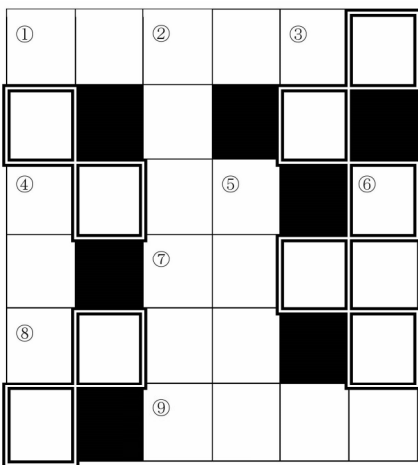
とあいさつ。大会は、活動報告・会計報告に続き運動方針として「地域の医療・介護を守り、公立病院・施設の拡充」「労働条件の改善と働きがいがある職場づくり」など提起し、代表委員の発言も受けて全会一致で承認。最後に赤松新委員長が「組合員を増やし、学習を重ね、組織を強くしていこう」など決意を語り、団結ガンバローで終了しました。

【ヨコのカギ】

- ①「誇示・宣伝する主義や主張」などを言う
- ④水上にいかだや舟を浮かべその上に板を渡した橋。舟橋
- ⑦耳でオーディオからの音声を聞く器具
- ⑧物事に動ぜず落ち着いているさま。悠々
- ⑨職に就く、勤務すること。病院に〇〇〇〇

【タテのカギ】

- ①命令につつしんで従う。王に〇〇〇〇〇〇の意を表する
- ②核兵器をなくそう
- ③〇〇ラアイス、〇〇ーガール
- ⑤姿勢などきちんとしたさま。〇〇〇〇座る
- ⑥英国の老舗メンズブランド。モダンラグジュアリーの象徴



出題者 堀川孝行

■574号のバズルの答えは「マインジョウイチ」(満場一致)でした。正解は8通でした。正解者のなかから5人の方に図書カードを進呈いたしました。(敬称略)

楠橋としえ(今治) 貝崎美都志(松山) 大石芽久美(新居浜) 越智 志珠(今治) 小林 弘樹(津島吉田)

【応募方法】バズルの解答、氏名、住所、単組名を忘れずに。また、余白に紙面の感想、職場や家庭での出来事などをお書きください。正解者のなかから5人の方に図書カードを進呈いたします。

【送付先】自治労連愛媛県本部バズル係 〒790-0003 松山市三番町8丁目10-2 (FAX、メールも可) 1面題字下に記載【締切り】2月27日【発表】578号(3月号)

おたより ありがとう

■9連休も始まってしまえばあつという間でした。今年は何もない一年にしたいです。(新居浜・小野)

■定年延長一年の年で、退職となり来年度からは再任用となります。これから後に続く若者たちの士気が下がらない改革を取り組みをお願いします。(今治・楠橋)

■寒さが一段と厳しくなつた頃、ペランダに時々鳥が来るようになりました。ほんの短い間ですが、心温まるひとときです。(松山・貝崎)

■先日、組合の婦人部でいちご狩りに行ってきました。お腹がたふたふになるまで食べたのですが、そのあとすぐラーメンが食べたくなって、それも完食し、心もお腹も満たされ、幸せな1日になりました。(新居浜・小倉)

■琉金を職場の方にもらい飼いはじめました。たまにひっくり返りますが、ゆつくりのんびりと泳ぐ姿に癒されます。(今治・越智)



(今治・越智)